

「ひろしま」

スタッフ

監督 関川秀雄 脚本 八木保太郎 原作 長田 新 製作 伊藤武郎
撮影 宮島義勇 美術 平田透徹 録音 安恵重遠 照明 伊藤一雄

キャスト

岡田英次 月丘夢路 神田 隆 山田五十鈴 加藤 嘉 利根はる恵
河原崎しづ江 松山りえ子 薄田研二

解説

2017年6月15日から7月7日まで、ニューヨークの国連本部で、

「核兵器禁止条約交渉会議」が開かれます。第一会期3月27日から31日に続く
今回で「核兵器禁止条約草案」が、討議され、採択される予定です。

残念ながら、被爆国日本政府は参加しません。

日本からは、被爆者、団体、個人が交渉会議に参加しており、6月16日には

「ヒバクシャ国際署名」296万3889人分と折り鶴をコスタリカのホワイト議長に
手渡しました。ホワイト議長は、「感動的です」と胸に手を当てて答えました。

核兵器を世界中で禁止する事があと一歩です。

核兵器を使用された『ひろしま』の現状を描いた関川秀雄監督の映画「ひろしま」は
今こそ見てもらいたい作品です。

被爆直後の広島を克明に描きたいとの強い願いをうけ、広島市民8万人がエキストラとして参加した。戦時中の服装、鉄カブト、防毒マスクなども各市町村から寄せられた。撮影場所も市内24か所で行われ、救護所、太田川の惨状などの修羅場が再現された。また、熊井啓監督が、大学卒業後初助監督としてついて、制作ノートを残している。

「あらすじ」

原爆投下後7年目の広島。授業中の高校生みち子は、原爆症で倒れる。昭和20年8月6日の恐ろしい光景が目に浮かぶ。子供が、女学生が、多くの市民が、原爆投下の地獄のような状況下の中で、いのちを失っていった。それから7年、原爆孤児たちは、アメリカ兵に掘り出した頭蓋骨を売るざるを得ないような生活を強いられていた。中には真面目に働いていた幸夫もいた。警察に捕まった時、引き取りに来た先生の前で、頭蓋骨を指して幸夫は叫ぶ。「僕は工場をやめました。工場では大砲をつくりはじめたんです。先生！また戦争が始まるんですか、人間同士が殺し合い、みんなあんなようになるんです。」

7年目の原爆記念日を迎えた日。何万人もの広島市民の平和祈願の行列が原爆記念碑へと
いつまでもつづいていく。平和をもとめ、核兵器の廃絶を願って！